

「貯蓄に関する世論調査」よりみた生活意識 について

大谷 陽子

緒 言

「結婚に関する意識調査」に続いて「生活設計に関する生活意識調査」（立正女子大学短期大学部紀要第12集掲載）を行ない、生活設計と生活意識とが必ずしも一致してない点を指摘した。そこで今回は、生活設計と不可分の貯蓄が、年代のちがいに、どのような生活意識のもとで行なわれているかを知りたいと思い、貯蓄増強中央委員会の「貯蓄に関する世論調査」（昭和39年～43年）を用いて、資料の整理を試みた。

資料整理の方法

「貯蓄に関する世論調査」（昭和39年～43年）の平均を資料より算出した。

結果及び考察

貯蓄の目的

病気や不時の災害に備えて

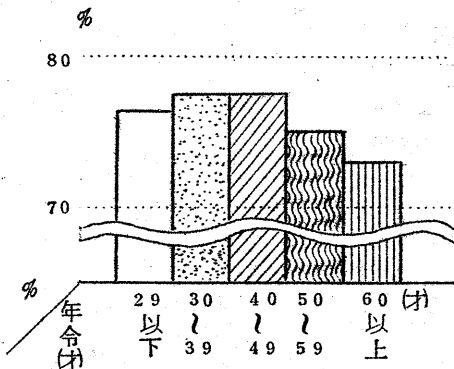


図 1

子孫の教育や結婚のための貯蓄

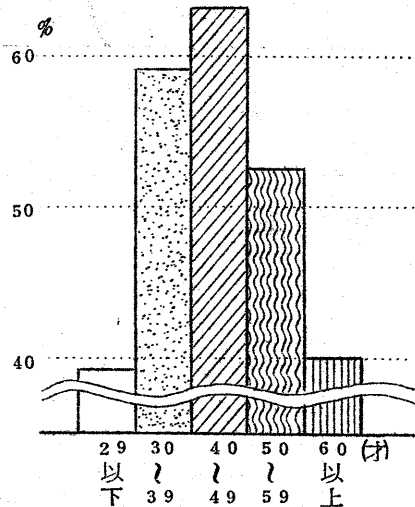


図 2

土地や家屋の買入れや修理改接のため

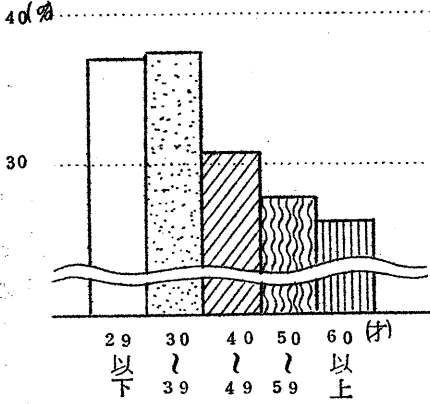


図 3

老後のための貯蓄

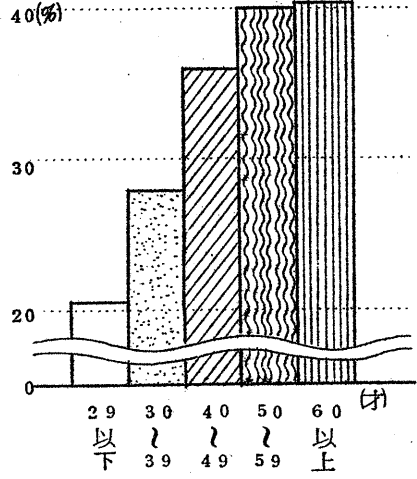


図 4

まとまった物品購入のための貯蓄

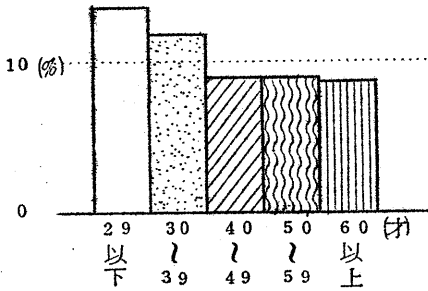


図 5

納税のために

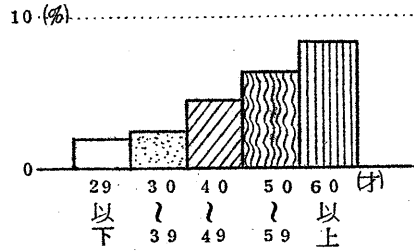


図 6

余暇を楽しむための貯蓄

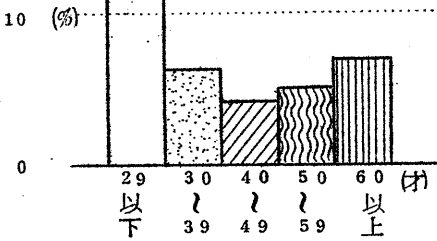


図 7

特に目的はないが、貯蓄していれば安心だから

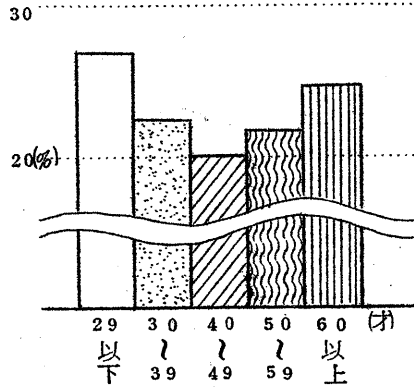
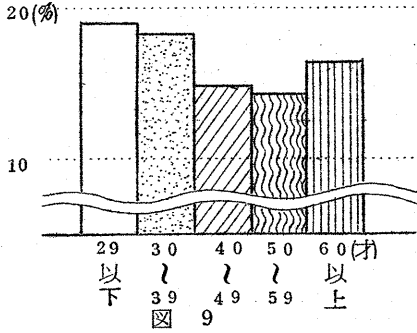


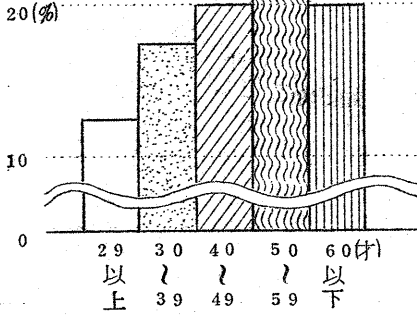
図 8

過去1年間の貯蓄の使途

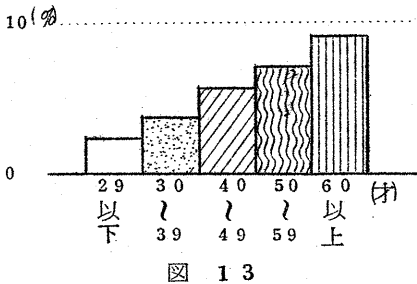
病気や不時の災害に



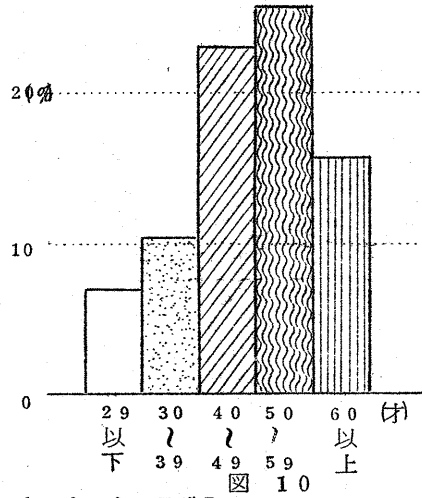
土地家屋購入等



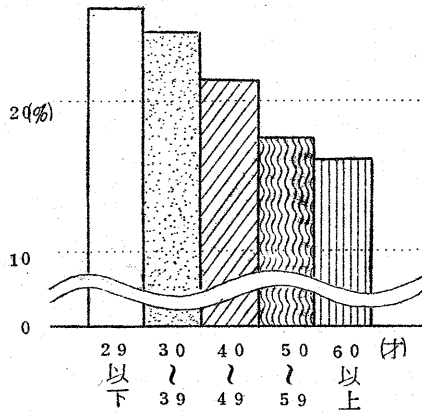
納税のため



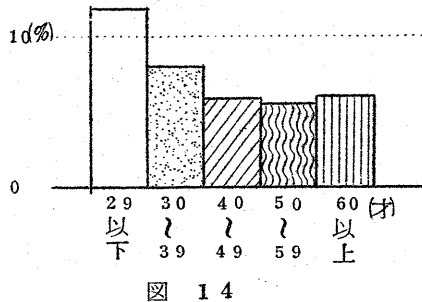
子供の教育、結婚のため



まとまった物品購入



余暇のため



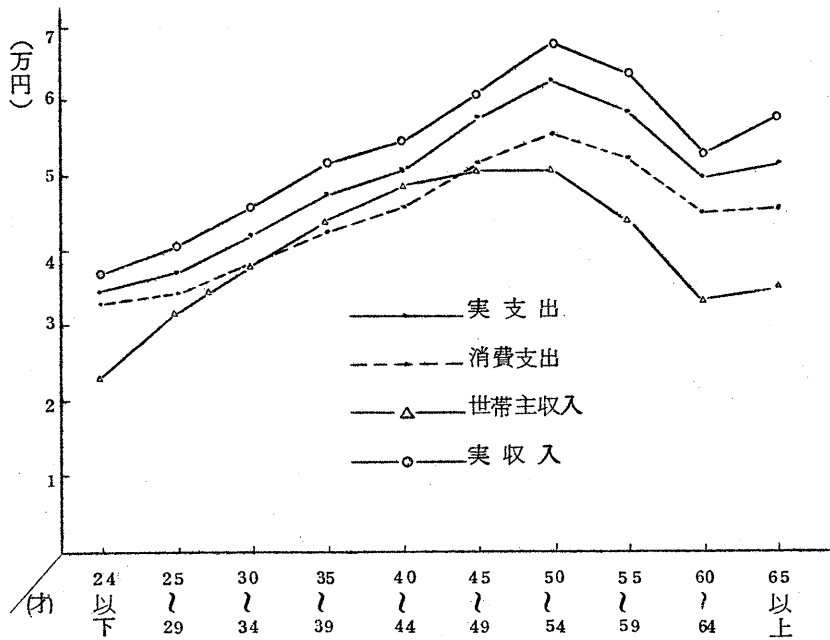


図 15

“貯蓄の目的”については図1に示すように、各年代とも、「病気や不時の災害に備えてとする世帯が非常に多く70%代を占めている。40代以下の世帯と50代以上の世帯とや、傾向がちがってきている。「特に目的はないが貯蓄していれば安心だから」とする世帯が20才以下と60才以上の世帯に多く、30代～50代世帯では少ない。どちらも比較的漠然とした貯蓄の目的ともいえるが、このような傾向の差は次の事項から説明することができると思う。

「子供の教育や結婚資金にあてるため」とする世帯は、年代別にかなり著しい差があり、結婚後間もない29才以下の世帯では子供がいないか又は、幼いために関心がうすく、60才以上の世帯では子供の教育も終り、独立してしまうために当然の結果である。一方、30代世帯では著しい増加となり、40代世帯でピークに達している。(図2)これは家族周期と貯蓄の目的とが同調している。

「土地家屋の買入れや修理改装のため」に貯蓄する世帯は、30代世帯以下に多く、40代世帯より減少している。(図3)過去1年間の貯蓄の用途として、この目的に使用した世帯の状況は図11に示す通りである。両者を合わせて考えるとすると、30～40代までに住居への基礎づくりをしてみるとみられる。一方、世帯主収入で消費支出を賄うことのできるのは、54才ま

でありその数は、世帯主収入を上廻る消費支出となり、40才代が最も余裕のある時期である。このことから50代へ、住居のための資金づくりは期待しえないことがわかる。そして、50才までに一応住居づくりを終える世帯が多いとみられる。

「老後の生活のために」貯蓄する世帯は、29才以下の世帯を底として、年代と共に急増しており、老後を迎えた60才以上の世帯が最も多くなっている。これは核家族化による老人世帯の問題、平均寿命が延びることで生活不安、物価変動による保有貯蓄への不安、不十分な社会保障と老後の経済生活への不安の結果ともみることができるのではなからうか。29才以下の世帯では未だ老後を考えるには余りにも若すぎ、とても生活設計にもり込むだけの自覚がないと見られる。むしろ、目前の「まとまった物品を購入するため」とか、「余暇生活を楽しむため」の貯蓄がどの世代の場合よりも多いのである(図5、図7)。

「まとまった物品を購入するため」の貯蓄は30才代以下の世帯に多く、40才代以上の世帯では余り変化がない。これは30才代以下の若い世帯では家族構成の変化、子供の成長と新たな生活財を必要とする時代でもあり、また若いのが故に新製品の順応もはやく、生活に持込みやすい条件を備えていることも影響しているといえる。過去1年間のこの費目への貯蓄使用状況をみると、傾向としては、貯蓄の目的と同じであるが、夫々の世代世帯に於て貯蓄の目的で示した割合の約2倍の貯蓄使用世帯率が示されている。前に述べた無目的貯蓄が流用されるのかも知れないが、まとまった物品購入というものが必ずしも一般的には計画的にその資金が用意されるものでないことを示していると考ええる。このことと同じことは「納税のための貯蓄」についてもいえるのである。(図6、図13)

「旅行など余暇を楽しむため」の貯蓄は29才以下の世帯が最も多く他の年代の世帯をはるかに上廻っている。(図7) 一方、過去1年間における貯蓄の使途においても同じような結果であるが、この場合も貯蓄の目的に余暇生活の資金を考えている世帯より、実際に貯蓄を余暇生活のために使用した世帯が、30~50才世帯で多くなっている。このことは、既に述べてきた、子供の教育や結婚、住宅資金、老後の生活資金と生活設計での大きな課題に直面しているこれらの年代の世帯では、はつきりと余暇生活資金として目的をもたせて貯蓄する金銭的余裕と、精神的余裕がなくなっている。殊に子供たちが青年期になる40才代の世帯では生活費もかなり負担が多くなることから、余裕的な分野へは出費をさけたいと考えるのであろうが、現実の

生活で、余暇生活を全く否定することはできないことから、これまた計画的でない方法で出費されていくとみてよいだろう。60才以上の世帯では余暇生活への関心も高くなり、生活を楽しみたいという考えが流れている。これは図22をみても明らかである。

“貯蓄するための心がけ”についてみると、「むだを省いたり節約したり」と心がけている世帯は50才以上の世帯に多く、30代世帯が最も少ないのであるが、これは30代世帯が、生活の無駄を省くことに関心が低いとみるよりはむしろ、図13～15に表われているように、天引貯蓄をしたり、副業や内職による収入増をはかって貯蓄にまわしたり、臨時収入を極力貯蓄に振り向けるという積極的な貯蓄への姿勢が、消極的な無駄を省くことによる貯蓄への依存度を上まわつたとみるべきだと思ふ。

貯蓄のための心がけ

むだを省いたり、節約したり

50(%)

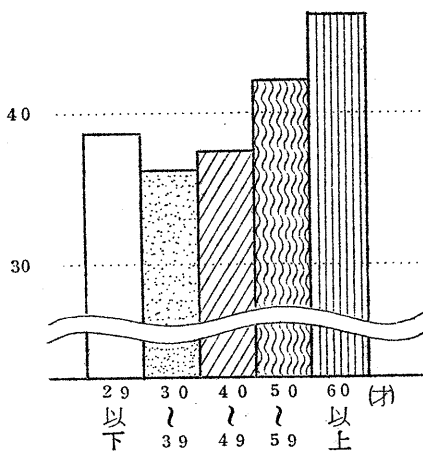


図 16

臨時収入はできるだけ貯蓄にふりむけるようにしている

とも角決った額を天引して貯蓄をふやす

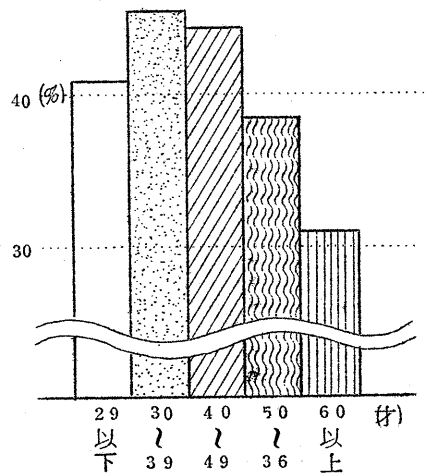


図 18

副業内職などで収入をふやして貯蓄している

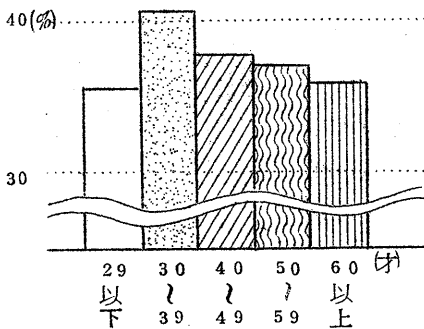


図 17

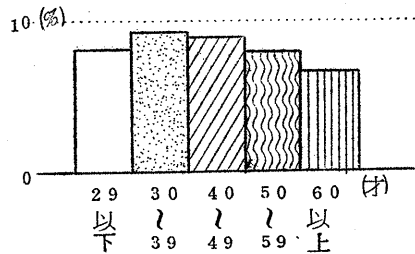


図 19

貯蓄に対する考え方

生活をきりつめて努めて貯蓄する
30 (%)

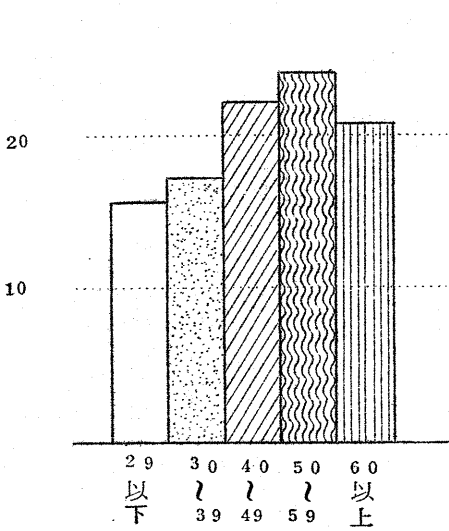


図 20

貯蓄のために或程度やりくりするもの
やむをえない。

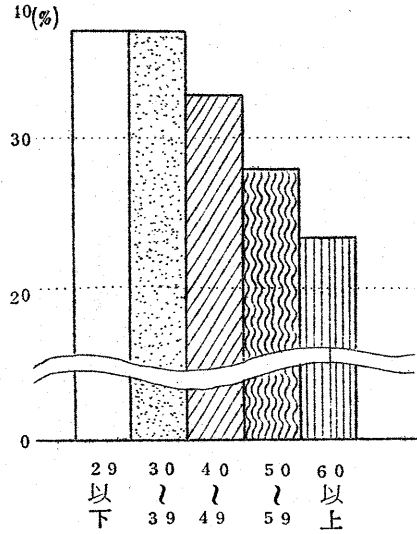


図 22

いづらか余裕があれば貯蓄した方が
(%) よい。

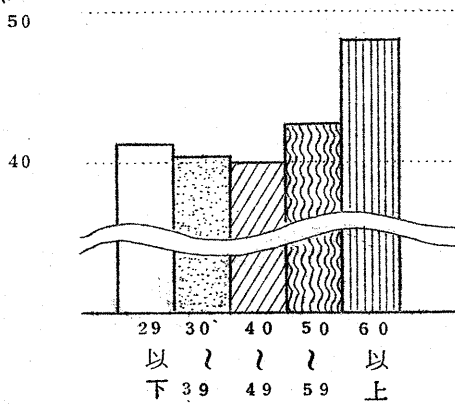


図 21

まず毎月の生活を楽しむ

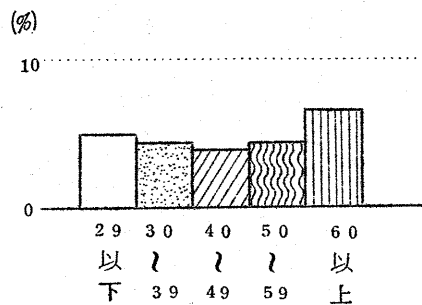


図 23

貯蓄の方法

毎月決った額を貯蓄する

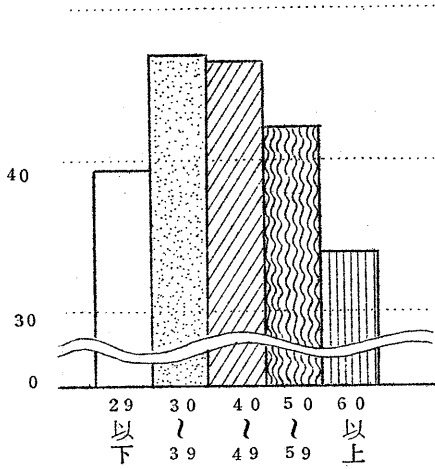


図 24

毎月貯蓄する額はきまっていない

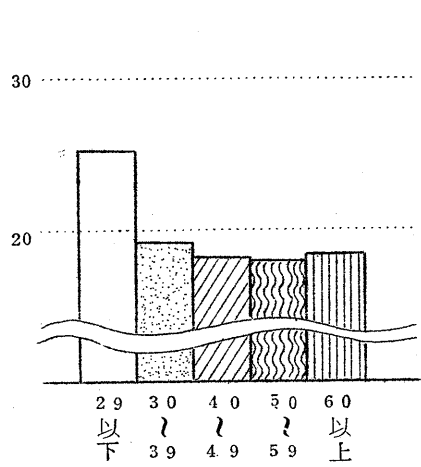


図 26

毎月とは限らず余裕のあったとき貯蓄する

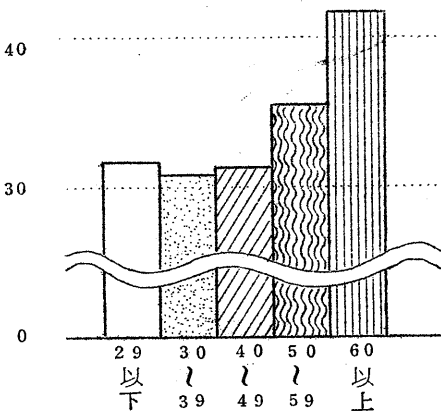


図 25

毎月の収入からは貯蓄しない

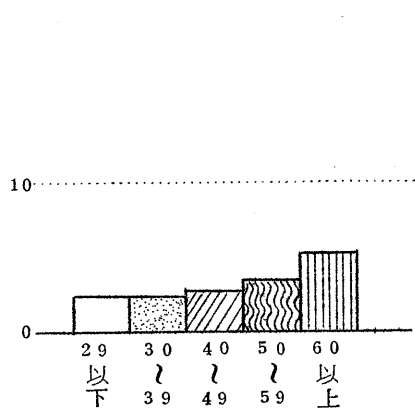


図 27

これは“貯蓄に対する考え方”のうち、貯蓄のために或程度やりくりするのも仕方がないと考えている世帯が多いことから理解される。(図17) 30～40代世帯が、前述のような生活の課題を抱え、それに対処する態度も、他年代に比して積極的であり、計画的である。“貯蓄の方法”をみても毎月決った額を貯蓄しているのもこの年代の世帯が多い。しかしながら、30代以下の若い世帯では、生活をきりつめて努めて貯蓄しようという考えは、40代以上の世帯ほどなく、単にやりくりによつて貯蓄しようと考えている。60才以上の世帯では、いくらか余裕があればした方がよいと考える世帯が48.1%もある。貯蓄の方法もまた、毎月とは限らず余裕のあつたときにする世帯が41.5%と、他の年代の世帯よりも可成り多くなつてゐる。これは生活のウエイトが既に軽くなつてゐることを立証してゐるともいえる。その限りに於いては、必ずしも老後の生活を前述ほどには不安に考えていない向きも推察される。

まとめ

世論調査の結果から、貯蓄を通してみた生活意識の各年代における差違は、生活周期と非常に関係があると思われる。但し、生活周期が前提となつて、当初から計画的に貯蓄が行なわれたり、生活態度が定められたりするのではなく、むしろ、或る資金の必要性を身近に感じうる時期になつて、貯蓄計画がすゝめられるのであり、大きな計画や、不時の出来事への対策は考えられる代りに、家計の予算と同様、頭の中で考えて削除、縮小可能な項目は貯蓄の段階でも、その対象からはずされたり、縮小させられていることがわかつた。しかし、耐久消費財の購入や、余暇生活のための費用の準備が不十分で、重要な貯蓄計画をくずすことがないとは、云い切れないのである。現代の人間が現在の生活を極度に切りつめても貯蓄をしようと思はず、適当に楽しい暮らしを考えてゐる傾向は、年齢とは余り関係がないようである。しかし、30～40代世帯にみるように、家族周期の中で最も経済的負担の大きい時期に、止むを得ず余暇生活等の余裕に対し目をつぶろうとしているが、現実の生活では家族の要求等により、必ずしもその考え通りに生活しえないというギャップが生じるのである。近年家族周期についての研究も盛んになつてきているので、その上にたつた経済計画が若い世代から工夫されねばならない。

今回は資料の関係で年次的に、各年代世帯の生活意識を追究することができなかつたので、再び機会を得てこの問題を扱いたいと考える。

貯蓄の目的 LA=3

	I	II	III	IV	V
病気や不時の災害に備えて	76.4	77.4	77.4	74.8	73.0 40.2
子供の教育や結婚資金にあてるため	39.0	59.3	62.9	52.2	40.2
土地家屋の買入れや修理改装のため	36.8	37.1	31.0	27.7	26.1
老後の生活のため	20.7	28.1	36.2	40.2	40.5
まとまった物品を購入するため	13.6	11.7	9.0	9.0	8.9
納税のため	1.9	2.3	4.4	6.5	8.6
旅行など余暇を楽しむため	13.1	6.2	4.1	4.9	6.8
特に目的はないが貯蓄していれば安心だから	26.9	22.2	20.1	21.8	24.5

貯蓄の方法

	I	II	III	IV	V
毎月決まった額を貯蓄する	39.5	46.9	46.5	41.9	33.7
毎月貯蓄しているが額はきまっていない	25.3	19.1	18.1	18.0	18.4
毎月とは限らず余裕があったとき貯蓄する	31.7	30.8	31.3	35.5	41.5
毎月の収入からは貯蓄しない	2.4	2.4	2.9	3.3	5.1

貯蓄するための心がけ LA=2

	I	II	III	IV	V
むだる省いたり節約したりしている	38.8	36.1	37.5	42.1	46.2
とも角きまった額を天引きして貯蓄にふりこむ	41.0	45.5	44.4	38.6	31.0
副業内職などで収入をふやすようにして貯蓄している	8.1	9.2	9.0	7.8	6.6
臨時収入はできるだけ貯蓄にふりむけるようにしている	38.4	40.7	37.8	37.1	36.1

貯蓄に対する考え方

	I	II	III	IV	V
生活を切りつめて努めて貯蓄する	15.7	17.5	22.5	24.3	21.0
貯蓄のために或る程度やりくりするのやむをえない	37.2	37.1	32.7	28.0	23.3
いづらか余裕があればした方がよい	41.3	40.3	40.0	42.4	48.1
まず、毎日の生活を楽しむ	5.1	4.6	4.2	4.5	6.6

過去一年の貯蓄の使途 MA

	I	II	III	IV	V
病気や不時の災害に	18.8	18.5	14.8	14.4	16.5
子供の教育・結婚資金に	7.1	10.4	23.2	26.0	15.9
土地家屋の買入れ新築修理改装に	12.5	17.3	19.8	21.5	19.8
まとまった物品の購入に	26.0	24.4	21.3	17.5	16.3
納税に	2.7	3.9	6.0	7.2	9.2
旅行など余暇を楽しむために	11.9	8.1	6.1	5.8	6.3
その他	10.3	8.3	5.3	4.8	5.4